

「災害に強い 人にやさしい 煌きのまちづくり」講演会で 事例発表内容

私たちが活動している「コープ金剛東 絆の会」とは、地震などの災害が発生した時に高齢者や障がい者などの自力では避難が困難な人、災害時要援護者を対象に、支援者が主に安否確認、または避難支援などを行う組織です。

それではまず、私たちのマンションについてご紹介いたします。

場所は津々山台1丁目1番、エコーロゼの大きな駐車場は皆さんご存知でしょうか？

国道309号線を挟んでその駐車場の向かい側にあります。平成6年から9年にかけて完成した、全部で8つの棟で構成されています。世帯数は480世帯です。

当マンションは完成当初から、車いす対応や高齢者に配慮した設計という特徴をもっていたので、居住者の高齢者比率はおそらくほかのマンションに比べてかなり高いと思います。そういう状況の中で、東日本大震災をきっかけに、平成23年8月に市役所の地域福祉課から、災害時の要援護者支援組織についての説明会が開催されるとお聞きして、それでは・・・ということで当時の民生委員を含む居住者4名が出席することとなりました。

市の説明を受け支援組織の必要性は理解できました。

ただ、私どものマンションには管理組合はありましたが、自治会や防災委員会といったコミュニティ組織が存在しませんでした。

そんな中で、はたして本当にそんな会ができるのかという大きな不安がありました。

まあ、とにかくにも、まずは準備委員会を立ち上げ、マンション内の全戸に説明会の案内を配布すると同時に知り合いに声をかけたところ、幸いにも参加者が31名あり、その中から代表者と副代表者を決めて支援組織設立に向け、活動方針や組織構成、規約などを検討し、「コープ金剛東 絆の会」として、その年の12月に設立総会を開いて、本格的に活動に入ることになりました。

8月に市役所の方から説明を受けて12月にはなんとか設立できたことは、立ち上げに関わった当初の4名の方々の尽力によるものが大きいのですが、自治会などが存在しなかったことは、確かに立ち上げのための基盤がないという点ではマイナスだったかもしれませんが、必要性を感じている人だけで動けるという点で、ある意味でメリットだったかもしれないと結果的に思いました。

このように立ち上がった私たちの組織は現在、支援者36名、要援護者52世帯66名です。

設立以降の当会の年間活動についてですが、発足当初から少しずつ活動を充実させながら現在に至っています。最初からあれもこれもできるわけではありません。

少しずつ、無理なく続けていくことが会を継続させていくためには重要ではないかと思えます。

もう一つ重要なのは、要援護者と支援者がお互いに面識を持つことだと考えました。知らない者同士では災害時といえどもコミュニケーションは難しいだろうということで、まずは要援護者のお宅に伺って近況を尋ねることにしました。

お互いの顔と名前を知り合うためのこの訪問は、毎年2回実施することにして、それにあわせて双方が参加する学習会やイベントを開催することにして、

これまで行ってきた主な活動を紹介します。

防災学習会の開催です。初年度は、市役所の危機管理室や消防署の方のご協力をいただきながら「東日本大震災に学ぶ」と題した講演会を開催しました。

この学習会を開催した時には、73名の出席者の中から、11名の方が支援者として名乗り出てくれるなどの嬉しい出来事もありました。

翌年度は火災報知機や消火器の取り扱いについて、自分たちが住むマンションの実態に即した、より実践的な訓練を開催しました。

また、当マンションでは一部にAEDを導入していますので、その取り扱いについての講習会を開催したりしています。

25年度の学習会では金剛分署の消防車にも出動いただいたことで、かなり大掛かりなものになりましたが、結構盛り上がった学習会になりました。

また、そういう災害対策とは別に、たとえば「ぼっちら教室」、これは高齢者向けにアンチエイジングを目的とした体操や脳トレの講習会ですが、そういうイベントを開いたりもしています。

去年の11月には、在宅介護支援センターのご協力により認知症予防と脳トレや健康運動の講習会を開催しました。

このように毎年2回ぐらいのペースでマンションのほかの組織にも呼びかけて、みんなで顔を合わせての会合を開くようにしています。

このように少しずつ地道ながらも順調に活動してきた絆の会ですが、悩み事もあります。今抱えている一番大きな課題は、「資金がない」ということです。お金がありませんから、できることにはおのずと限界があります。せめて多少の経費の捻出ぐらいできないものか、今後の課題です。

もう一つは、今後この活動をいかにして将来的にも継続していくかです。今は世話役に当たる人数がまだまだ不足しています。要援護者として登録されている高齢者の方も、普段は支援者側として活動していただいているのが現状です。

災害時要援護者の安否確認が目的だった「絆の会」ですが、さまざまな活動を通じてお互いの顔と名前が少しずつ覚えられるようになったこともあって、その後、私たちのマンションにはなかった

自治会や老人会の立ち上げにつながり、現在では、管理組合、婦人会、福祉委員会、子ども会などとともに、コミュニティ活動の振興といった面で思わぬ成果が出ているように思っています。

そして、今後もし災害が発生した場合の支援活動においても役立つ可能性があるのではないかと感じています。私たちのマンションの他のコミュニティ組織はもちろん、市役所の方や他の住民組織などとの互いの協力によって引き続き地道に、「しかも楽しみながら」取り組んでいきたいと思っています。

そうすることで最終的には市役所の力を借りない、共助の精神による自立した地域活動を支える一部分となれるまで高められれば良いと考えています。

以上、コープ金剛東「絆の会」の取り組みをご紹介します。

文責 M